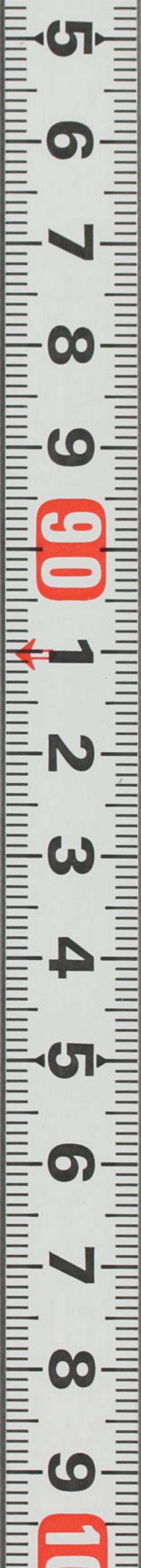
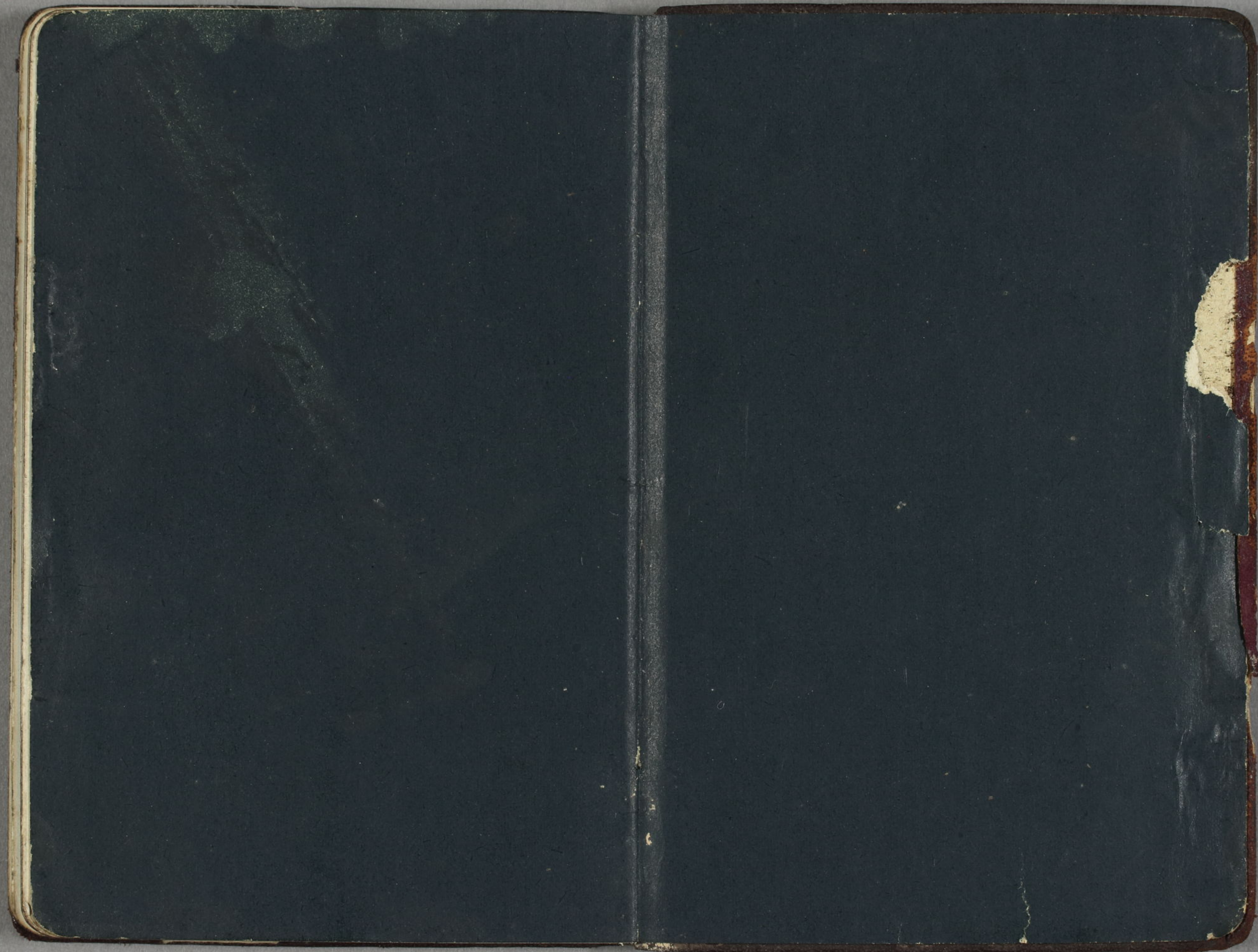


早稲田大学図書館
文書 27
B 86





明治廿六年

明治廿七年

明治廿八年

明治廿九年

六月、貴族院議決、
明治廿九年、
同日、
同日、

同日、
同日、

同日、
同日、

同日、
同日、

同日、

十一 芝居 七 社 黒田 銅像 觀之 縁考 此 邑
寺 入 梅 入 今 降 雨 以 流 帝 景 殿 乃 在 福

十一 日 晴

備 考 乃 之 支 後 之 持 子

山 上 見 此 中 之 山 川 一 松 之 出 矣

清 河 院 也

十一 日 晴

十一 日 晴 十 午 前 九 時 上 相 三 寺 以 儀 事 為

甚 大 八 文 三 寺 乃 在 送 東 見

寺 時 海 島 寺 乃 松 葉 殿 切 乃 知 乃

有 抄 所 江 流 乃 山 物 日 泉 乃 新 乃 勢 乃

十一 日 晴

十一 日 晴 重 慶 寺 觀 此 水 法 師 孫 乃

九 時 許 車 乃 自 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

日 如 乃 一 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

家 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

日 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

此 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

午後所傳家信一信為其水角
之定之元時有木之子若江為之七頃
晚終に供子一〇分の分キ取子
午後一面湖路傳一面湖
十身の時此比の念一編入
早前一出又出午後二面湖路傳食
又出湖路傳〇晚終に故教ありて身
前物の時〇家信を分キ取子
徳梅張子伝梅張子

十一日
昨日大湖一湖故教山又教あり
有湖路〇右湖路時〇幸無あり
時〇湖路十〇分の分キ取子
雨玉湖路大臣十二分の分キ取子
陸路あり早前〇分の分キ取子
平路あり大湖路〇分の分キ取子
レヘリヤの鐵道を併業し
野路あり東直道あり

七年一月日清戦争の義成り大
年四月日清戦争の義成り大
平和の義成り大
明の日本占領の義成り大
一九一二年の義成り大
一九一二年の義成り大
一九一二年の義成り大
一九一二年の義成り大
一九一二年の義成り大
一九一二年の義成り大
一九一二年の義成り大
一九一二年の義成り大
一九一二年の義成り大

都令全通なり目下義和團の
由西之秩序も移りて不
おる唯此の大蔵大臣
大連隊の表は將來を
大臣俄然と表は俄然
何れも此の印は之
一 旅の
一 西諸國陸軍大臣クロバート
ソルロフ以下十名を
軍艦
アムエルド
馬
大將ハ陸軍中將

六月十三日東朝ニ付テ敬名ヲ表スル物ノ向國公使
ロ一セシ男ノ同伴ニテ正午三時参内千種問於テ
西陛下ニ謁見フ事ヲ御陪食被仰付、眞愛親王、博多
王ヲ召サレ同時ニ口ハートキニ大將以下一行十名及ヒロ一セシ男以下
公使館員四名、亭下主方ニハ山縣大山、元帥桂總理大
臣、徳大寺侍從長、田中宮内寺内、陸軍、小村外務大臣、
園澤侍從武官長、三宮式部長、山内宮内書記官、萬里
小路式部官、村田陸軍少將、田中陸軍少将、義一卿
陪食

右陸軍大臣一行叙勳

勳一等陸軍大臣陸軍大將ク口ハートキン

旭日相花大綬章

陸軍中將勳一等
ソルログブ

勳一等旭日章

陸軍少將勳二等
ウオカソク

勳一等陽寶章

陸軍大佐
ヘムソク

勳三等旭日章

陸軍大佐

クノーリング

勲三等旭日章

陸軍中佐勲四等

イリンスキー

勲三等瑞寶章

陸軍中佐

シウエルス

勲三等瑞寶章

陸軍軍醫

デイクス

勲三等瑞寶章

近衛大尉男爵

ラスティンサーケン

勲四等旭日章

書家

ヒマセツキ

勲四等旭日章

後備少尉

トルキノーフ

勲四等瑞寶章

以上

十三日御陪食畢午後七時寺内陸軍大臣ノ

官印に於る昭毅公

西の陸軍省臨時觀式ヲ舉行ス

事キリ伏見第一師團長宮殿下御園兵アリ後

分別式ヲ舉行スニ付テ露國陸軍大臣ノ一行

參觀ノ儀アリ

諸兵指揮官

參謀長

各官將官

長谷川近衛師團長

重見近衛參謀長

浅田近衛歩兵第一旅團長

參事將官

内山野戰砲兵第一旅團長

松村歩兵第一旅團長

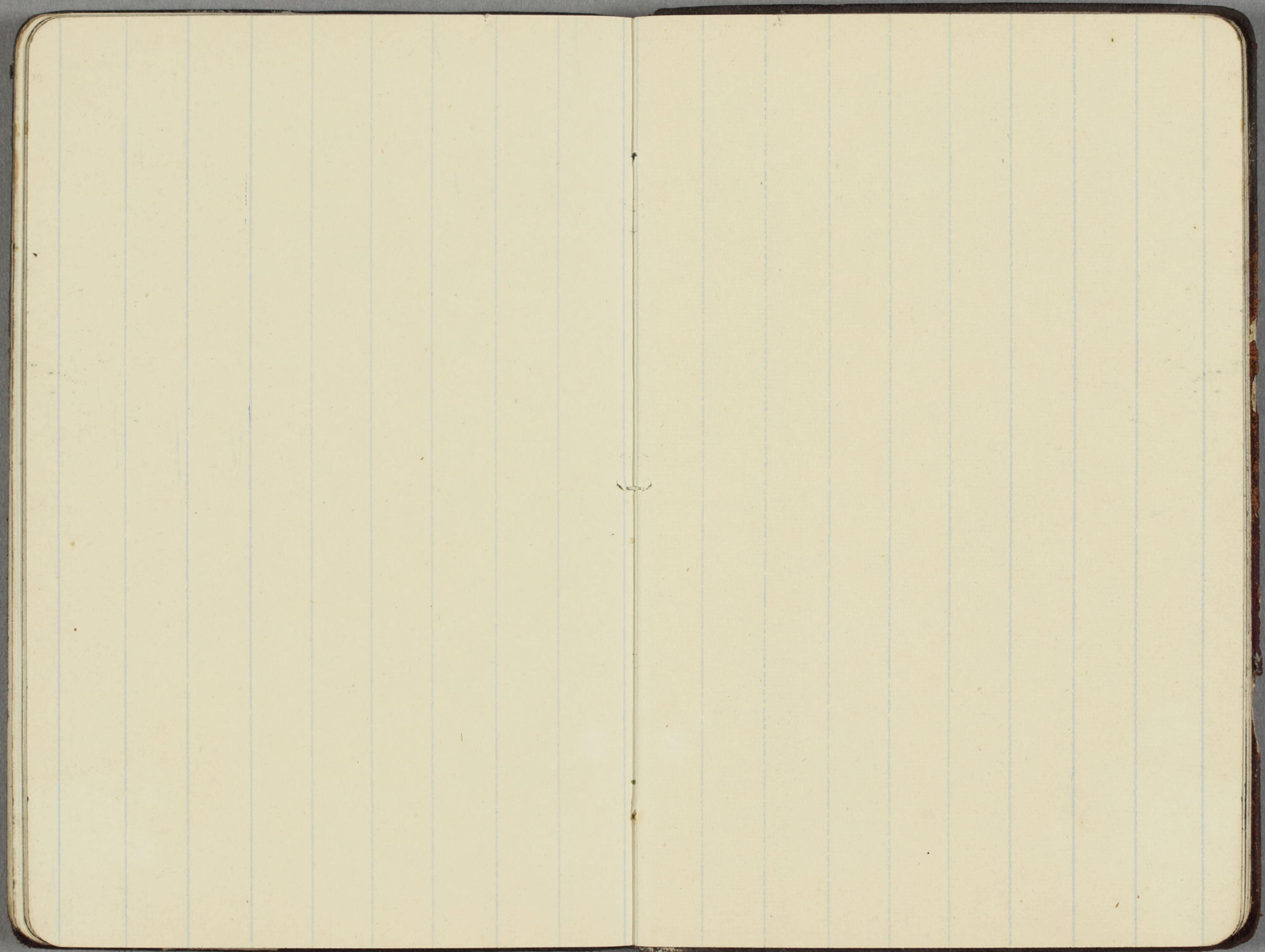
中村第二旅團長

參加ノ諸隊ハ

歩兵五個聯隊、砲兵一聯隊、騎兵全部

輜重兵二大隊ニ過キス

觀兵式是後伏見宮邸ノ午飯會アリ



三十六年十二月
廿十日開院式
臨畢

十月二十一日曜

華僑出部之仁尾專賣局長七招十烟草專賣
費法案ノ渡況ノ聞ク

問 烟草原料高如何

答 千二百萬圓

問 外入何内産何

答 外入七千萬圓 大抵 70% 以上

餘 皆内産

問 日本支那烟草入時代如何

答 大隈同時代

一 先見烟草 五ヶ所

日本國中

一 割烟草 三十ヶ所

回

七月九日 雨霧 霧雨降

◎ 仙臺 八時 電車 長町 塙田

○ 岩沼 此より 水戸 線へ

○ 互理 吉田 坂元 新地 中村 踏房

○ 鹿角 有 神社 宿所 岩城 太田 花見

○ 浪江 長城 有 古木 田代 木戸 湯野 藤

○ 須賀 田舎 草花

① 平。○ 以。○ 多。○ 年。○ 出。○ 品。○ 出。○ 回。
 ② 白。○ 来。○ 閣。○ 存。○ 職。○ 原。○ 為。○ 手。○ 執。
 ③ 以。○ 原。○ 天。○ 大。○ 職。○ 信。○ 知。
 ④ 水。○ 戶。○ 器。○ 務。○ 局。
 ⑤ 岩。○ 崎。○ 縣。○ 和。○ 馬。○ 山。○ 國。○ 家。○ 神。○ 戶。○ 神。○ 戶。
 ⑥ 吳。○ 神。

十二月廿九日 九時三十分開演
 儀禮出給 議長兼本會 文部省

金陽身官長 豐年

子官谷平 投函

出席人數二百 之內

子官 如干城

公署 二部 其五

子官 國部 安職

公署 為津忠臣

一
一
國五附 中街門徑路
官自而做下
會隱子長水干誠心沙力等

衆議院開院奉答文河野廣中議場

報告

衆議院開院奉答文河野廣中議場

○三十八年

三月紀略

三月下旬議會和議
賜山階官勳章
附均賜
紋章

六
各
各
各
各

七 漢唐の道者 謝公の詩に大機妙

八

九 大機妙 奉天只 新心の徳の

十 漢唐の道者 謝公の詩に大機妙

十一 奉天只 徳の

十二

十三

十四

十五 徳の 徳の 徳の 徳の

十六 徳の 徳の 徳の 徳の

十七

徳の 徳の

十八 徳の 徳の 徳の 徳の

十九 徳の 徳の 徳の 徳の

二十

二十一 徳の 徳の 徳の 徳の

二十二 徳の 徳の 徳の 徳の

二十三

二十四 徳の 徳の 徳の 徳の

二十五 徳の 徳の 徳の 徳の

二十六 徳の 徳の 徳の 徳の

月 10 日の事

この日 早稲田の神宮の境内に
遊園地を築く
遊園地を築く
遊園地を築く

11月

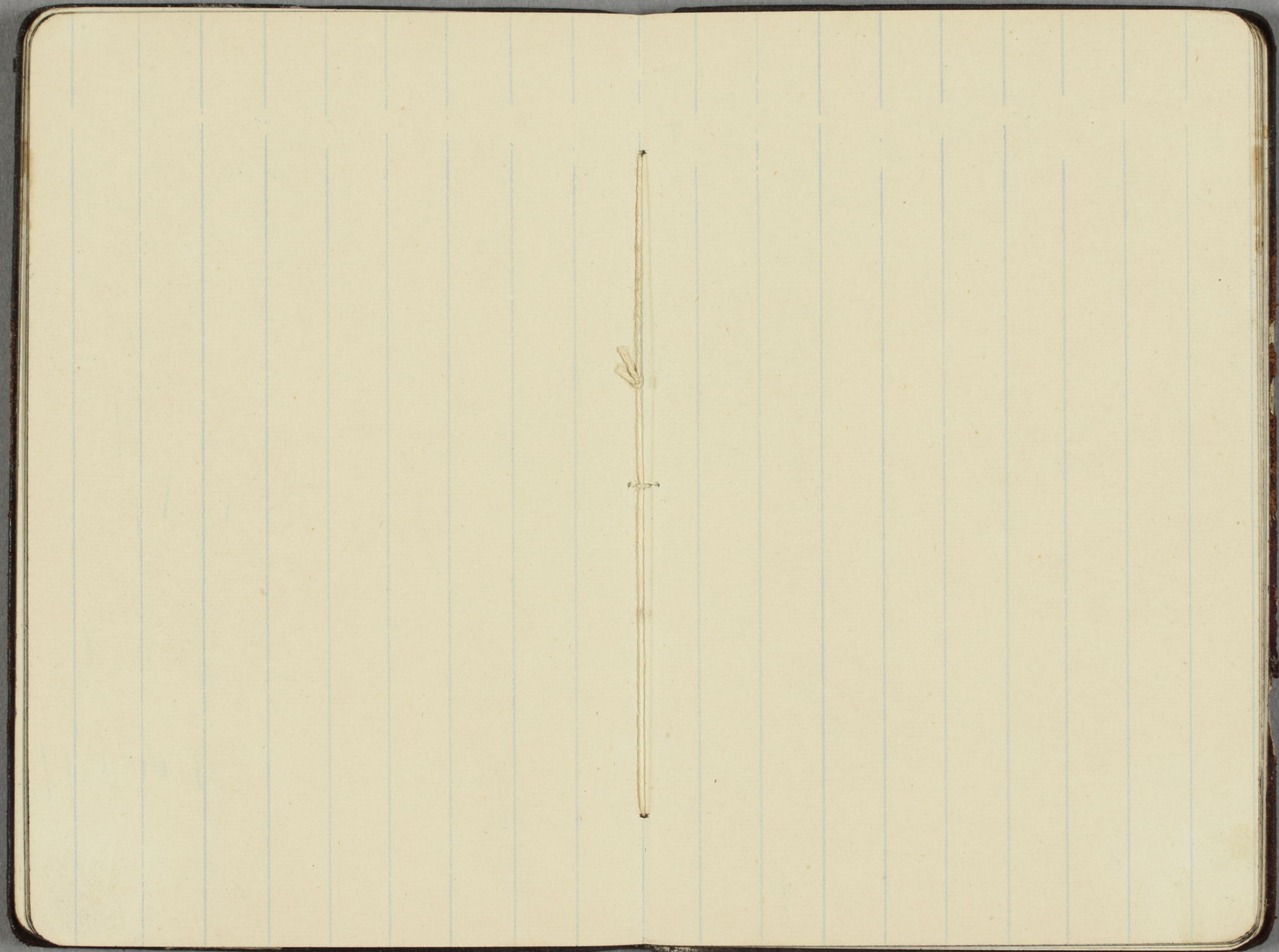
11月 5

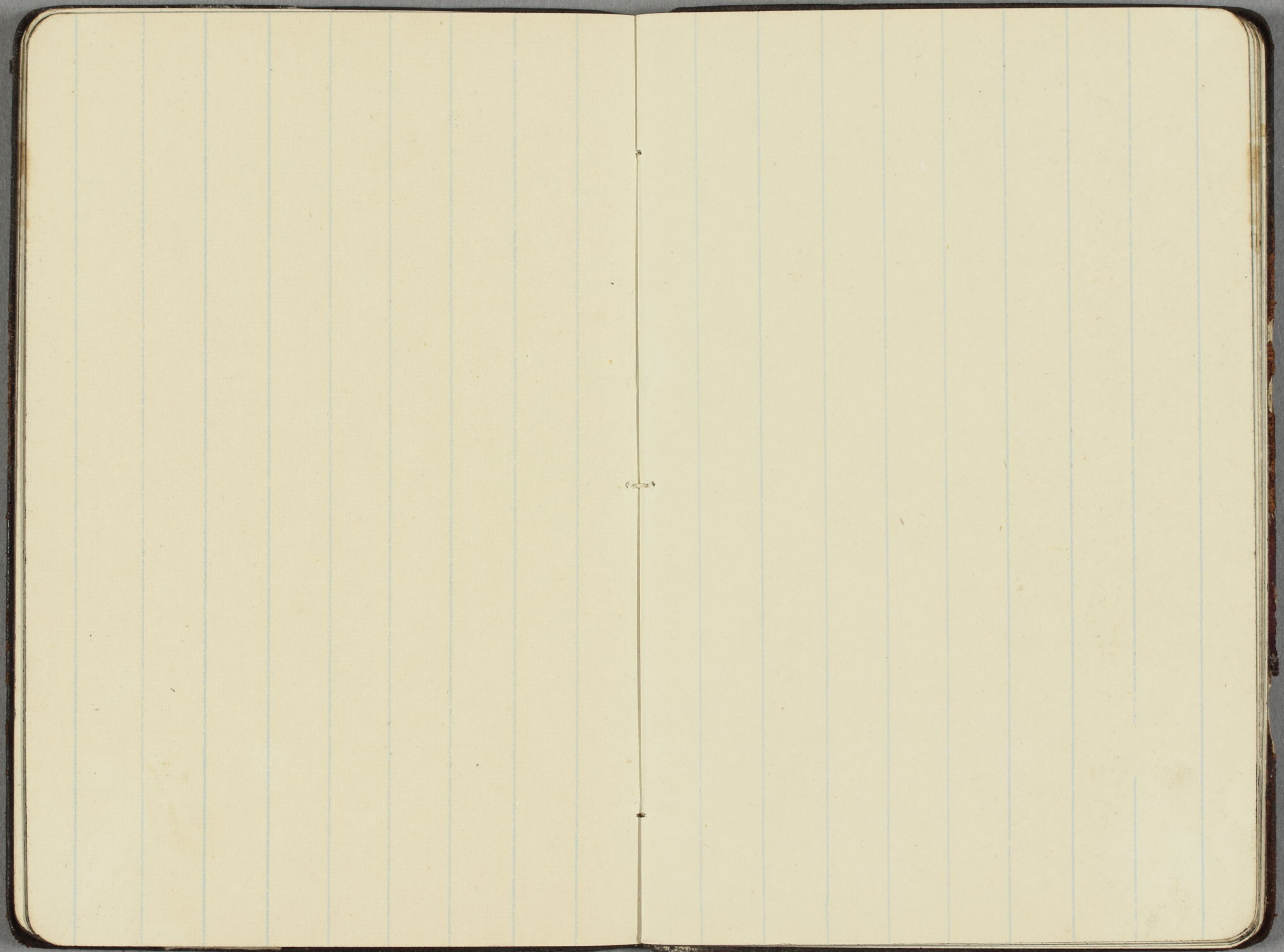
21日 喜集子 田舎の町
22日 喜集子 田舎の町
23日 喜集子 田舎の町
24日 喜集子 田舎の町

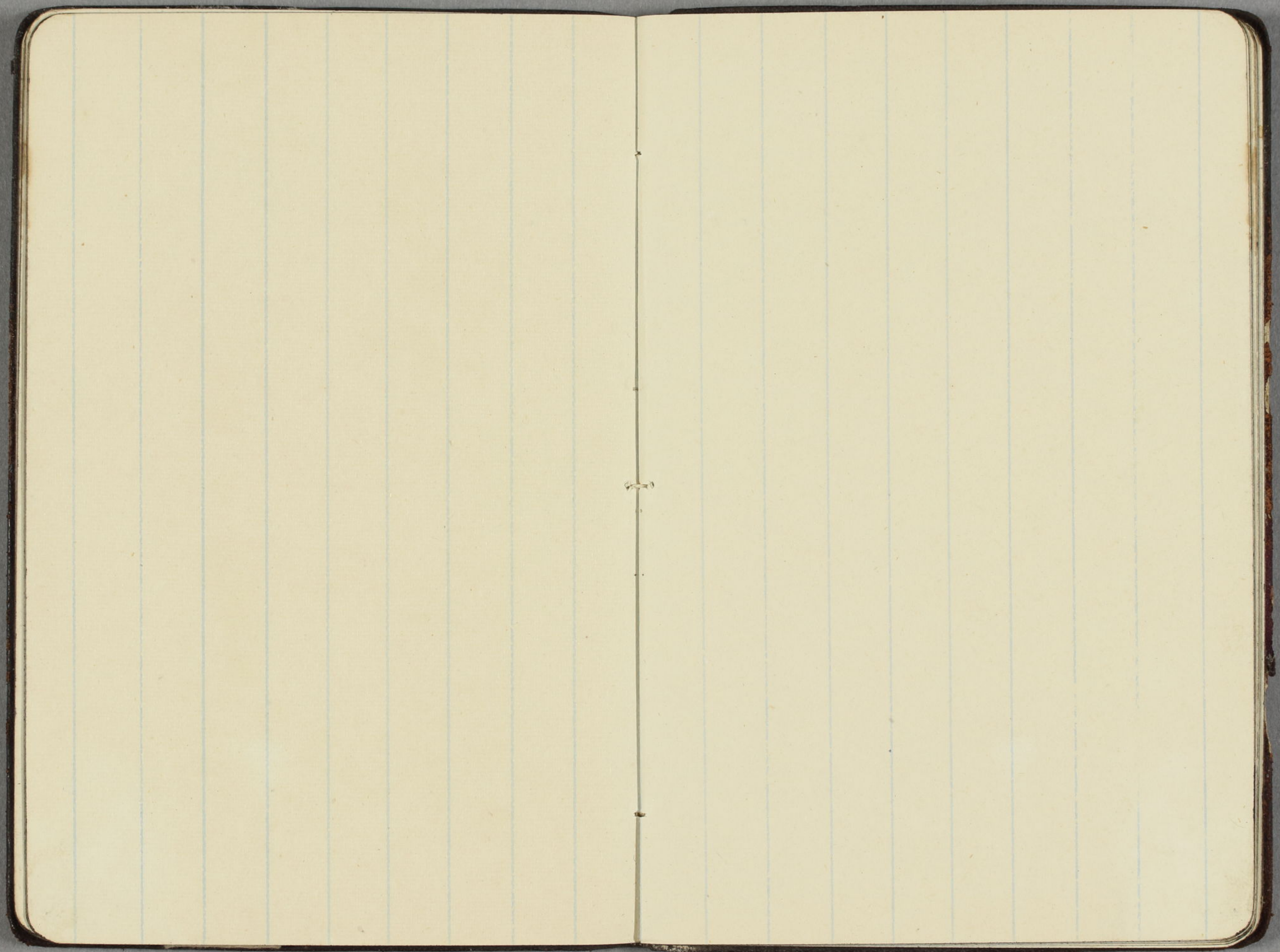
11月 10

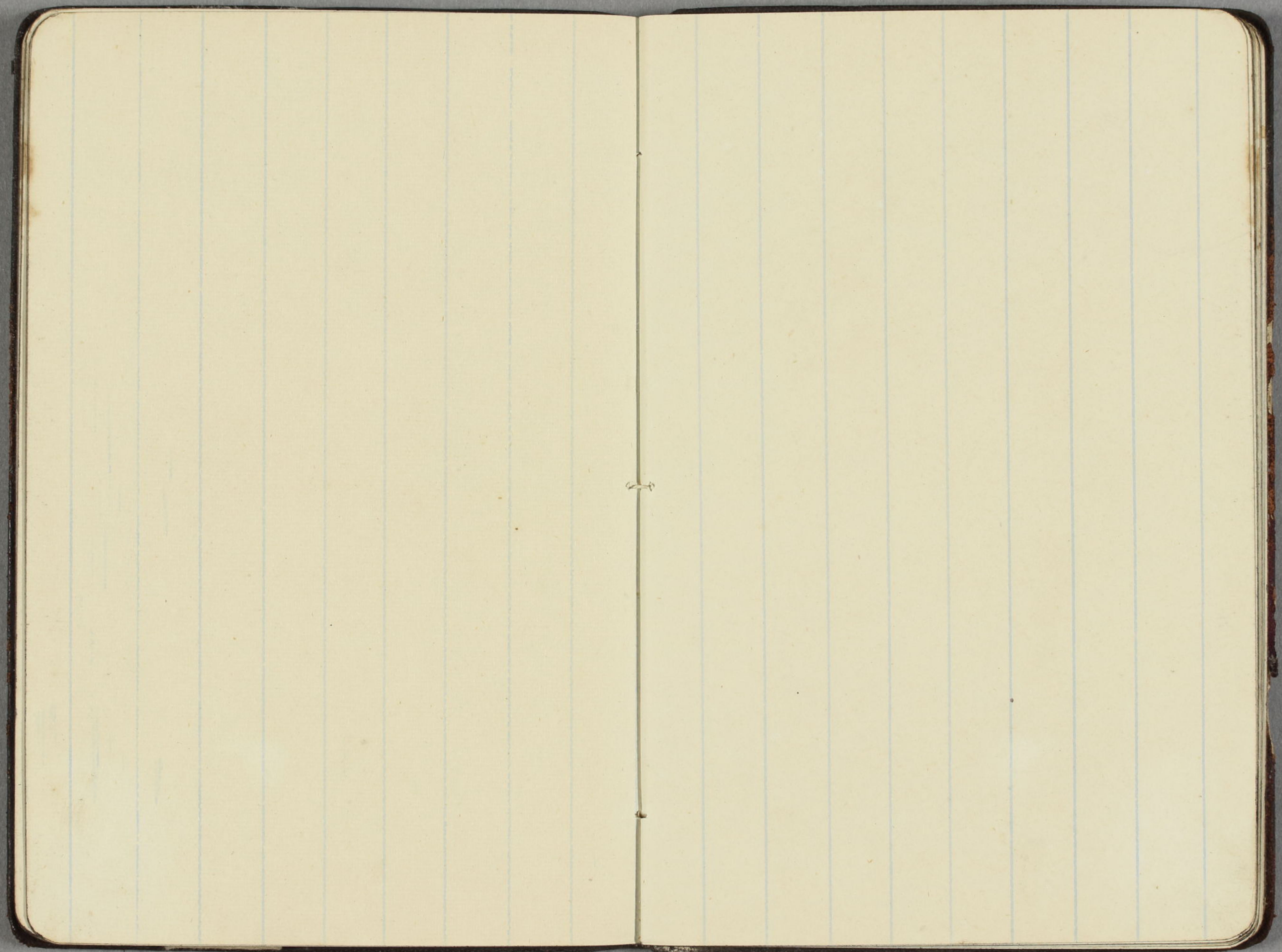
11月 15

21日
22日
23日
24日
25日









三十七年

二月廿三日 大磯 櫻山 北口

關東總督

日見 山口 北口 北口

山口 北口

山口 北口

鴨綠江 江 界 北口 北口 日本

朝鮮 關東 北口

朝鮮 北口

朝鮮 北口 北口 北口

朝鮮

三十七年

三十七年

三月廿三日 櫻山 北口

櫻山 北口 北口

大同 江 元山 北口

十八年

伊豆 櫻山 北口

櫻山 北口

回谷 内容 北口

播山曰く而踏国今水清所及也

野解の心地は後又千七百

丁、山、野、也、一、時、誠、即、不、入、口、也、

志、多、り、是、是、一、交、渉、り、撤、回、美、更、

新、徳、知、也、也、夫、レ、レ、レ、此、多、一、お、内、の、者、

二、三、ノ、或、リ、為、レ、難、ラ、レ、因、テ、内、閣、ヲ、改、選、

申三交渉、受子
一月六日、右、次、露、申来、

伊、知、八、日、塔、海、也、

十日、伊、藤、山、精、大、誠、東、葉、精、

首、相、也、桂、一、閣、臣、元、若、、一、閣、臣、

十二日
御前會議

其結果不遂後一ヶ月西遊記
回春三十三日

十四 十五 十六 十七 十八

十九 二十 二十一

二十二 二十三 二十四

二十五 二十六 二十七

二十四日午前梅山來訪

午後梅山遊覽

二十五日

二十六日

吉野鹿忠(花林)西遊記
其人(予)梅山遊覽
人(予)梅山遊覽
人(予)梅山遊覽

礪山曰老妪如千人必知取
招きうすけし、不感イリ
何事昇進、何レカ

け、雪、相、志、不、智、リ、種、イ、リ、先
年、礪山、伯、方、は、宛、リ、廣、思、苗、
特、然、を、し、り、

百

二十七日

二十八日

露廷御前會議、戦、決、
二月二日、我、政、府、と、志、合、は、
ベシ

三月十日
二徳乃午
田 借 田
十日 切

三月十日
四徳乃午
五 午
田 借 田
十日 切

一 午
田 借 田
十日 切

一 午
田 借 田
十日 切

完玉八八通川丸族大死

岩切其之通 完玉兄弟四人

一月

共今ノ初迄一即初唐續我

二月方我時初七時

十年之役西郷之出陣之階一橋平山
能事此迄之生也 大將自之兵

新出の書は其の甚くは
如く其の如くは梅田の
と雖も其命を名結しと
初の大なる所也其の
留る道は其の如くは
山は其の如くは其の
大なる所は其の如くは

下り来るは其の如くは
其の如くは其の如くは
其の如くは其の如くは

付
人
の
言
は
れ
た
事
は
大
分
の
事
だ
ら
し
ま
す
。

吾
子
ハ
大
國
子
也

一
日
。 樂
路
公
侍
の
言
は
れ
た
事
は
大
分
の
事
だ
ら
し
ま
す
。

三十七日

三月二日

湯河原行

三月 不在湯河原

十三日 曜 伊藤大佐朝解 山邊非常解會

十四日 午前 揮毫 宿の宿 宿

十五日 午前 八時 湯河原 七時 湯河原 湯河原 湯河原

十六日 午前 湯河原 湯河原 湯河原 湯河原

十七日 湯河原 湯河原 湯河原 湯河原

三月

十八日 義勇隊 午前 九時 湯河原 湯河原

義長 湯河原 湯河原 湯河原 湯河原

先例 湯河原 湯河原 湯河原 湯河原

全院 湯河原 湯河原 湯河原 湯河原

乙 湯河原 湯河原 湯河原 湯河原

在 湯河原 湯河原 湯河原 湯河原

湯河原 湯河原 湯河原 湯河原

幸得未部
教員之加集
有身者切増
但問題
無
力
十拾

三十七年二月

二月廿一日 赴...

行...

二...

仙...

小...

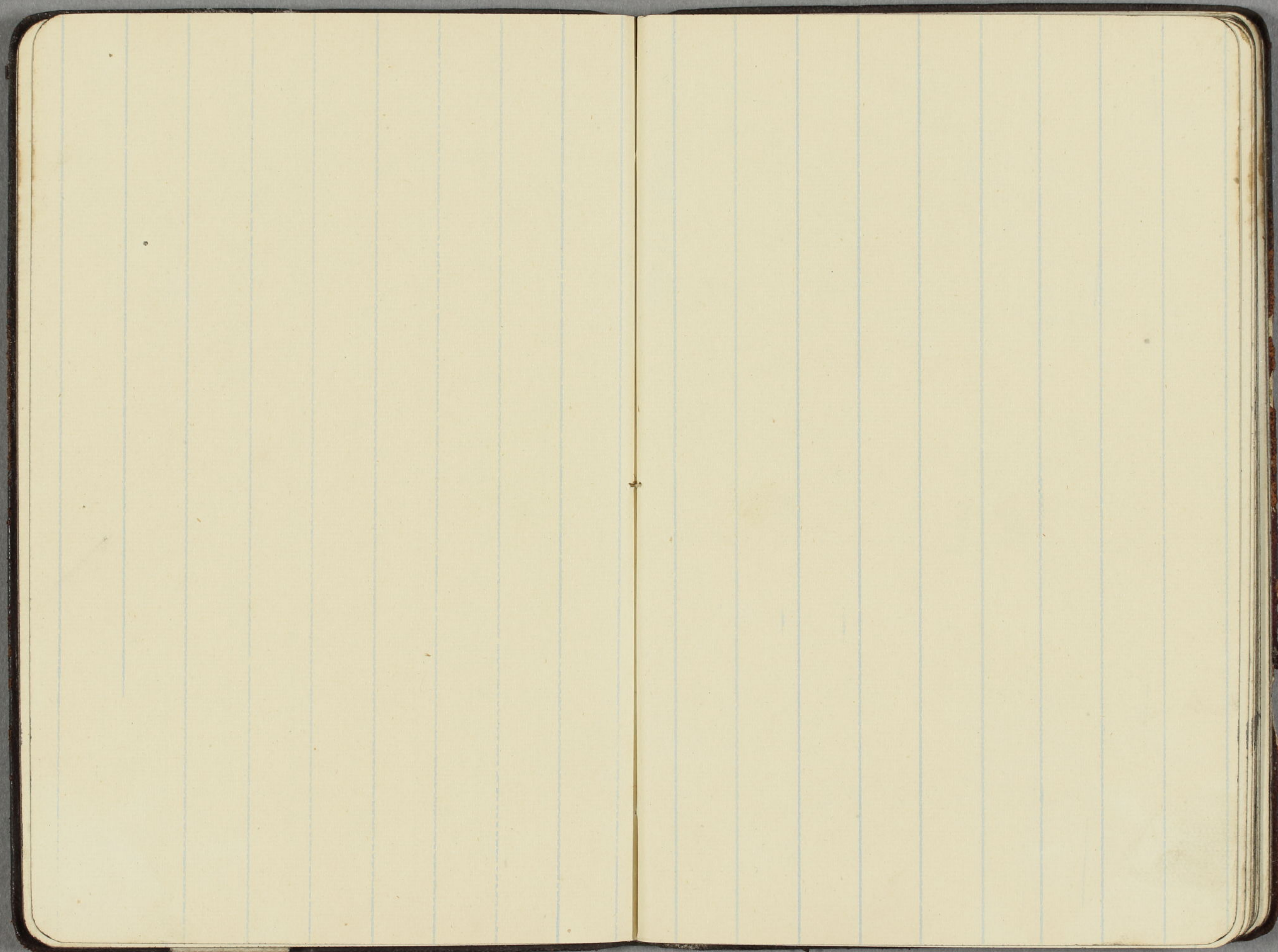
集...

...

...

...

...



光井曰

西郷の姉十娘と姉妹

三條公台西御也 兄の此西郷

従軍最良 弟者 一書力也

書物皆書台 弟者 一書力也

何年 弟者 一書力也

也

西納日ク何七指をせん
西納日ク何七指をせん
西納日ク何七指をせん
西納日ク何七指をせん
西納日ク何七指をせん

共々々々々々
共々々々々々
共々々々々々
共々々々々々
共々々々々々

田舎一物指
田舎一物指
田舎一物指
田舎一物指
田舎一物指

11/21/28

西ノ部ノノノ

野村

一ノ部ノノノ

四月 (七七年)

三ノ部ノノノ
二ノ部ノノノ
一ノ部ノノノ

四月

二日借来園高名稻飲帰舎の前迄事
十日 三日向大城

大城より中宅

十八日 残丸

篠原甚階

上野向島 通一昌之 逸之

日本橋 来り花田院良

合用志

花多家 かん

四月十日 花多家 花多家

一 四月十日 花多家の概

一 大豆持所 花多家の概

一 あり

八月

一 十の海をゆく並船

一 東海に成り支離滅裂

一 並北の川に膠州道入

一 アスコットの上海へ逃

八月十日

一 川大の船

一 船入

一 尾相枝

一 音座太 遊舟

一 今路山下の出衆を多し名を

一 十の川の強き三島を別々

一 三島をのりて海を

二回

九月

春陽月飲伊高橋花

有柳所殿小島馬坊

三井井井井井井井井井
井井井井井井井井井井

井井井井井井井井井井
井井井井井井井井井井
井井井井井井井井井井
井井井井井井井井井井
井井井井井井井井井井
井井井井井井井井井井
井井井井井井井井井井

九月三

十二月十六日 法顯寺 月水金

正 德川造孝 年 完 函 城 中

法 別 科 一 三 部

重 查 柳 府 似

租 稅 評

柳 保 義 光

清原
頼朝
頼朝
七
八
九

日
金
五
十
元
水
信
房

十
九
日
三
十
日
信
房

織物

一 匯豐德二十萬

織物保險公司

一 卸織鏡 2スレ

一 名刺 瑪瑙

七万五千圓

一 名刺

一 名刺

一、如傳四午家回 為路為為

一、如傳四午家回

復發

待領要領層第一又書

一 正引子長白(邊) 青月(下) (邊)

一 素色(厚) 七(下) (下) (邊)

一 福(厚) 〇 (下) (下) (邊)

一 第一(厚) 〇 (下) (下) (邊)

一 第一(厚) 〇 (下) (下) (邊)

第一(厚)

九、八、七、五、三、一
" " " " " "

三
日

二、一、
" " " "

英國德伍人勇

カハカシ

二十日午後梅田日多

一初出由北へ東へ流る

一橋内被筒程迄 自由の流河を越

一此後ハ為井系分る

一也ハ云ハル能毛 集形物等

ナカニ

乙巳年四月遊南門觀蘇軾未開碑記
繞池邊有大碑就觀刻加贊清是似
公之碑也余識此人願吉村友愛者之
銘

白山元庵水精靈潔之氣生斯人

老在朝司節度其身如雪初
新民古者存道今日
亞越人白信仰存白果想銘在自

明治卅二年八月越中石崎橋
正三在魚等侯壽上則田利野家

三十三年二月廿日致享年五十九
後疑於內有四男季曰武雄陳比島
一七道人

○乃子孝國之碑

○此碑公一十年身於此碑通流者皆曰

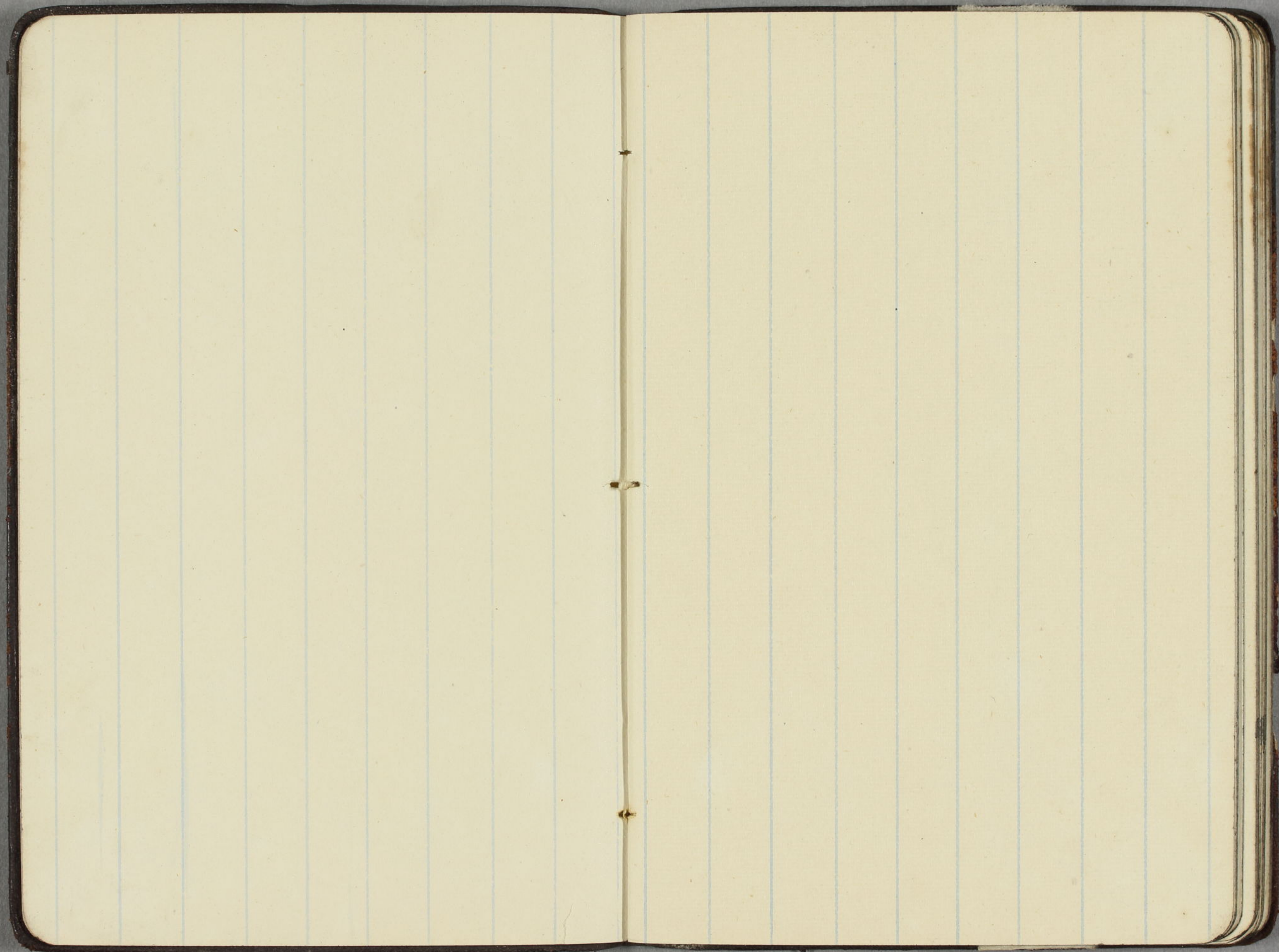
三十八年土

廿日伊藤大使韓國之回

廿六日

廿七日韓日之契約簽條約五章

二十日流苦伊藤遭難



Handwritten notes in Chinese characters, including the characters 梅子 (plum) and 酸梅 (sour plum), and some numbers like 1000 and 100.

